

活動報告

団体名	Keiwa HOPE
活動名	若い力を被災地に。大学生による被災者寄り添い活動 3
活動期間	2019/04/01～2019/09/18
活動の成果	<p>さまざまな活動に従事したが、いずれの被災者からも伝えられたことは「忘れられていないことが何よりもうれしい」との言葉をいただいた。発災から月日が経過しており、当時は「他の人に比べたら被害は小さい」として諦めていた片付けをメインとする活動も学生がはるばる駆けつけたことにより、片付ける気持ちになったと伺った。写真洗浄でも開設日数が限られているが、被災者一人ひとりの思い出を復旧するための作業であるため、慎重さが求められる。限られた日数・人員でニーズを完了するのは困難なうえ、いまだ依頼があることがまだ復興途上であることを再認識する機会となった。みかん畑での活動では、支援者としてのあり方を学生たちは学んだ。継続活動の大切さ、日々いれかわるボランティアスタッフへの気配りなど、ともに活動をして感じたことは大きかった。</p> <p>発災から月日が経過する中で、支援の内容はもとより、方法、心の持ち方について学べたことはこれからの活動に大いに活かせるものとなった。課題として、現在も復興途上である災害に対して今後はどのように向き合っていくのか、いまだにボランティアの手を必要とするなかでどのように協力できるのかがあげられる</p>
寄付者へのメッセージ	<p>第1回、第2回助成に引き続き、今回の第3回も採択いただきました。被災地でのボランティア活動に対し、あたたかいご理解、ご寄付を賜り誠にありがとうございます。わたしたちの団体は「継続的な活動」を大切にしています。しかし、学生は複数回、継続した活動をするには費用面が第一に課題となります。しかし、助成金をいただけたことで複数回にわたり活動が実現し、被災者・支援者との信頼関係の構築、コミュニティ形成の一助となれました。私たち Keiwa HOPE (Keiwa for Helping Other PEople) は引き続き、助けを求める方々に寄り添い、新潟からできる継続した支援を行っています。この度は誠にありがとうございました。</p>

(活動のようす)

